



## 「あなたが変われば、世界が変わる」 北海道・東北地区開発教育 地域セミナーに参加して

▼  
**大川 誉芳**

6月10日、11日の2日間、岩手県盛岡市で開催された「開発教育地域セミナー」に参加しました。毎年、開発教育協議会やJICAとの共催で開催されていますが、今年度は、財岩手県国際交流協会などが主催し、一般向けというよりは教師、ボランティアとして既に開発教育に携わっている人たちのステップアップを目的にした内容で行われ岩手県内をはじめ、北海道と東北各県から国際協力・国際交流団体のメンバーや国際理解教育に携わっている人たちなど約60数名が参加しました。

### 参加者自身が考える場を

まず、全体会では、外務省経済協力局政策課の妹尾創課長補佐と国際協力事業団医療協力部計画課の友成晋也氏から「外務省の開発教育支援の取り組みについて」、「国際協力の現場から」と題してそれぞれ講話がありました。妹尾氏のお話から、文部省のと横断的な委員会の設置を準備しているなど外務省が本格的に開発教育の支援に乗り出していることが伝わってきました。また、友成氏は任地のガーナで、ボランティアとして野球のナショナルチームの監督を務めたというユニークな活動を報告し、現地の子ども達に送る野球道具の寄付を呼びかけました。

続く基調講演では、国際民衆保健協議会日本連絡事務所の池住義憲代表が、はじめに「一人の人間が相手に質問もさせないで、15分間以上話し続けるのは深刻な人権侵害だ」と話し、参加者全員によるミニワークショップを行いました。まず、3~4人のグループを作り、「7才の子どもが下痢で死んでしまった」という事象について、グループ毎にその原因を遡っていました。ですが、このように参加者自身が“子どもの死”について思いを巡らすことで、途上国における生活衛生環境の問題が身近になり、また複合的な原因をはらんでいることに気付かされました。

た。その上、一緒に考えることで参加者同士の距離が縮まるという効果もありました。これは開発教育を進めていく上での重要なポイントの一つです。

### 欠かせないファシリテーターの存在

その後、5つのテーマに別れて分科会が行われ、私は「地球の子ども達とつながるために-青少年の開発教育・国際協力-」という分科会に参加しました。ここでは、実際に教育現場で行われているワークショップ、たとえば、車座になった参加者の中央に図を書いた紙を置いて何に見えるかを言い（同じ物を見ているのに、見ている立場で違うものに見える）、自分の見方を押しつけてはいけないことを知るべきなどが紹介され、その内容について話し合いました。2日目には参加者自身がワークショップを行い、それを皆で評価し合い、どのようにワークショップを進めるか、ファシリテーターはどうあるべきかということについて議論し

ました。この議論を通じて、ワークショップ参加者の自発的な“気付き”を導き出す“ファシリテーター”的な方針は、特にマニュアルがあるわけではなく、非常に多様であり、且つその場の状況に対応できる柔軟性が求められる事を改めて認識させられました。それだけに、このような場でその技法についてお互いに意見を出し合い、研鑽していく必要があるのだと思います。

### 参加型学習としての開発教育

最後の全体会では、各分科会で話し合ったことを発表したのですが、どれも内容の濃い分科会であったことが分かり、セミナーは盛況のうちに幕を閉じました。

セミナーを終えて、開発教育、そしてそのような参加型学習の場の必要性を再度強く感じました。今、国の内外を問わず起きている多くの問題は、一国の政府や一部の人間で解決できる問題ではありません。「環境問題」が良い例だと思います。その解決のためにには、一人一人がその問題を自分のものとして捉え、取り組んでいく姿勢が不可欠です。そして、人々のその姿勢を育てる一つの方法が、開発教育という参加型学習の場なのでしょう。

（社団法人北方圏センター職員）

## ◆◆◆◆◆北海道NGOネットワーク協議会◆◆◆◆◆

### 北海道開拓で先人に学んだ経験をシェラレオネの発展に役立てよう！

シェラレオネは1961年に英国から独立した西アフリカの大西洋に面した共和国です。面積は約7万平方キロメートル（北海道の約86倍）、人口は520万人（北海道の約90倍）で、金・銀・白金、ダイアモンドはじめチタン、クローム、コバルトなどの希少金属などの地下資源に恵まれています。

国土の2/3が高原で森林、水資源にも恵まれた美しい国ですが、隣国の内戦による大量の難民の流入や、自国の内戦で現在争乱の中にあります。将来的には農林・水産・漁業や地下資源の開発が期待され、また、教育・医療・環境衛生・情報通信網の整備などが急がれています。当会は、国の規模が似ており、開拓使が置かれた明治時代以降の北海道開拓の歴史と体験を役立てられるのではと北海道支部を設立しました。

これまで、自転車、医療品、文房具などを寄贈してきましたが、同国からの希望でカラーフィルムの現像・印刷機一式などを送るべく募金を募っています。現在の争乱で援助活動は停滞していますが、これからも「全地球市民」的な視野にたつて共生できる世界を目指したいと考えています。

日本シェラレオネ友好協会北海道支部  
003-0029札幌市白石区平和通5丁目北2-8  
（株）シスコム内  
電話(011)866-8180 Fax(011)866-8182  
会長 飯野 正法

